

地域材の利用拡大に向けた 川上から川下までをつなぐ仕組みづくり

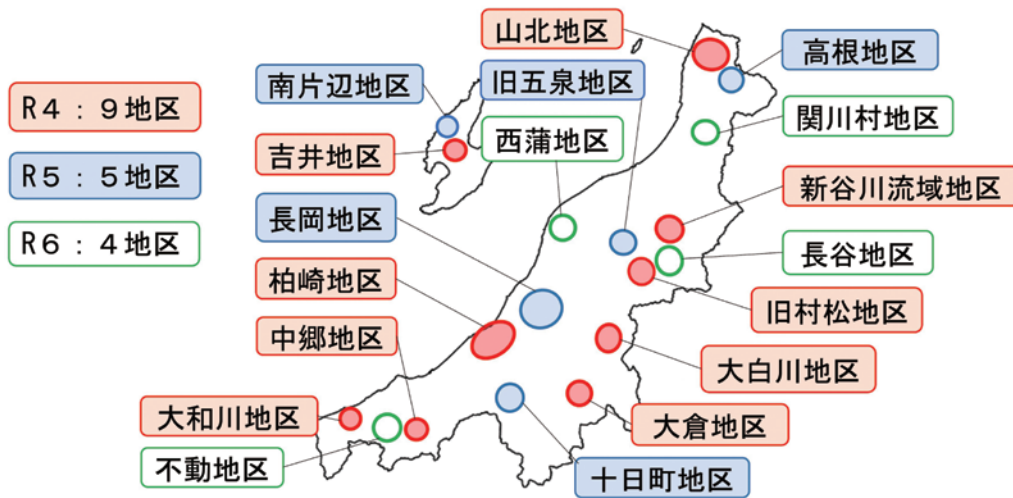


はじめに

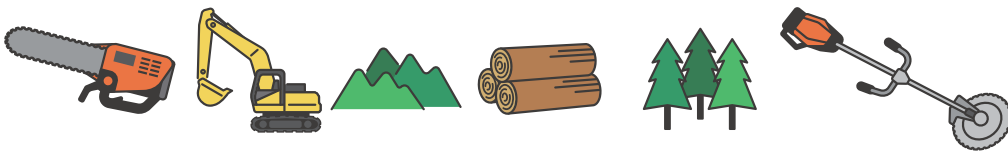
新潟県では、川上から川下までの関係者が一体となって地域材の供給と利用拡大に取り組み「つなぐプロジェクト」を推進しています。この取組は令和4年度から始まり、令和10年度までに30地区で展開することを目標に、現在18地区で展開中です。

このプロジェクトでは、①森林資源の活用が持続可能な地区を選定し、②川上から川下までの関係者が共同で森林資源を活用するプランを策定し、③プランを実行するため関係者が連携して地域材のPR活動や利用拡大に取り組んでいます。

私はフォレスターとして、全県のプロジェクトの取りまとめ役を担い、活動が円滑に進むようにサポートしています。



つなぐプロジェクトの展開状況



主なプロジェクトの紹介



出荷材の品質・規格の目合わせ

これまでは、地域の林業関係者の連携が不十分で、川上側は計画的な素材生産ができず、川中側は必要な量の丸太を安定的に確保することが困難でした。そこで、複数の素材生産者、製材工場、工務店などが連携し、定期的な需給情報の共有により安定した出荷体制を構築しました。また、計画的な取引が開始されたことで、丸太の新規需要先への共同出荷を実現しました。

製材工場への安定した
出荷体制づくり（山北地区）

新潟県農林水産部林政課県産材振興室

前川 達人

地域材の認知度向上の取組 (柏崎地区)

柏崎地区で生産される木材は、これまで間伐によるBC材が中心でしたが、今後は多くの森林が伐期を迎え、主伐の増加が見込まれるため、より収益性の高い製材用材の需要拡大を促す必要があります。このため、親子向け森林ツアーの開催や木育活動のほか、プロジェクトのInstagramアカウントを開設し、主伐再造林や建築で使われる様子を積極的に情報発信することで、地域材の認知度向上に取り組んでいます。



森林ツアーの開催

ブナ材の高付加価値化に向けた取組(大臼川地区)

大臼川地区は豪雪地帯に位置しているため、ブナの幹の根元が曲がりやすく、その曲がった部分は従来、用材としてほとんど利用されていませんでした。そこで、プロジェクト推進員を中心に根元曲がり材の需要開拓を行い、ブロック状に製材してスポーツ用材として使う企業からの受注を得たほか、曲がり形状を活かした家具の製作なども進めました。この取組により、森林所有者の収益向上につながりました。



曲がり形状を活かしたベンチの製作

ノウハウの横展開に向けた取組

プロジェクト推進員や各地区を担当する林業普及指導員などを対象に研修を開催しています。研修では、各地のプロジェクトで得られた成功のノウハウや課題等を共有した上で、班ごとに課題への取組を検討します。その結果を各プロジェクトにフィードバックすることで、プロジェクトで得られたノウハウを横展開し、全体への波及を図っています。



ノウハウの横展開を図るための研修の開催

おわりに

これらの取組を通じて、川上と川下が直接つながり相互理解が深まることで、新たなビジネスチャンスが生まれることがわかってきました。例えば、前述の根元曲がり材のほか、黒心、多節といった一般的にはネガティブに捉えられる地域材の特性も新しい価値として認識されつつあります。今後も、新たなつながりによる販路拡大をサポートすることで、地域材の利用拡大に貢献していきたいと考えています。